

地区大会偶感

—記念講演と余興を一般公開しては—

大阪北 村田 悦蔵

地区大会は、ロータリーの綱領を推進するために、ガバナー主宰のもとで毎年開催されている。この大会はホストクラブの周到な準備のもとに行われるのであるが、その成否の鍵は専ら参加者の協力如何にかかっている。現状はどうなっているだろうか。大会第一日の堂に満つる参加者が第二日には見る影もなく激減するのが通例であつて、ホストクラブはその対策に苦慮している有様である。この有意義な地区大会を真に実りの多いものにするためまず望まれるのは、参加者の熱意と協力ではなからうか。

地区大会の開催期日であるが、ロータリー年度の9月から3月までが適当ではなからうか。4月以降の開催の場合には、クラブのエネルギが新年度の活動に傾注されがちとなるので、大会参加の熱意に盛り上がりを欠くことになるのもまた止むを得ないであらう。

地区大会における討論会は、大会出席者の全員参加のもとに行われることが望しいであらう。しかしこの場合、パネルディスカッション等の形式をとることとなり、そのテーマ

が限定されざるを得ないであらう。そこで地区大会に於ては、部門別に会場を変えて討論するのが普通である。この場合全部門の協議内容を知らなければならない。ところが一般にこのリーダーの報告時間は一人当り5分内外であるので、申し訳的な報告になるのも止むを得ないであらう。形式的儀礼的な行事の時間をきりつめてでも、この各リーダーの報告時間を増やすべきではなからうか。

地区大会の記念講演は、何時も格調高く感銘誠に深いものがある。この記念講演に郷土色豊かなアトラクションを加えたプログラムを大会の最終に廻し、地域の住民へ一般公開することはできないものだろうか。大会運営上極めて困難な事情があるであらうが、もしもこの一般公開が実現すれば、どれほど地域社会への奉仕ともなり、またロータリーのPRに役立つことであらう。

科学技術の開発は限りなく進んでゆく。社会の変転はまことに目まぐるしい。奉仕の理想を高く掲げるロータリーも、その歴史と経緯をしっかりと踏まえながらも、この変動常なき社会情勢に適應する姿勢を示している。

私は地区大会に出席することに、大きな友情の輪のなかで何かしらロータリーの新しい息吹きを感じているのである。

(商業教育)